

町田市のごみ減量・資源化の進捗状況について

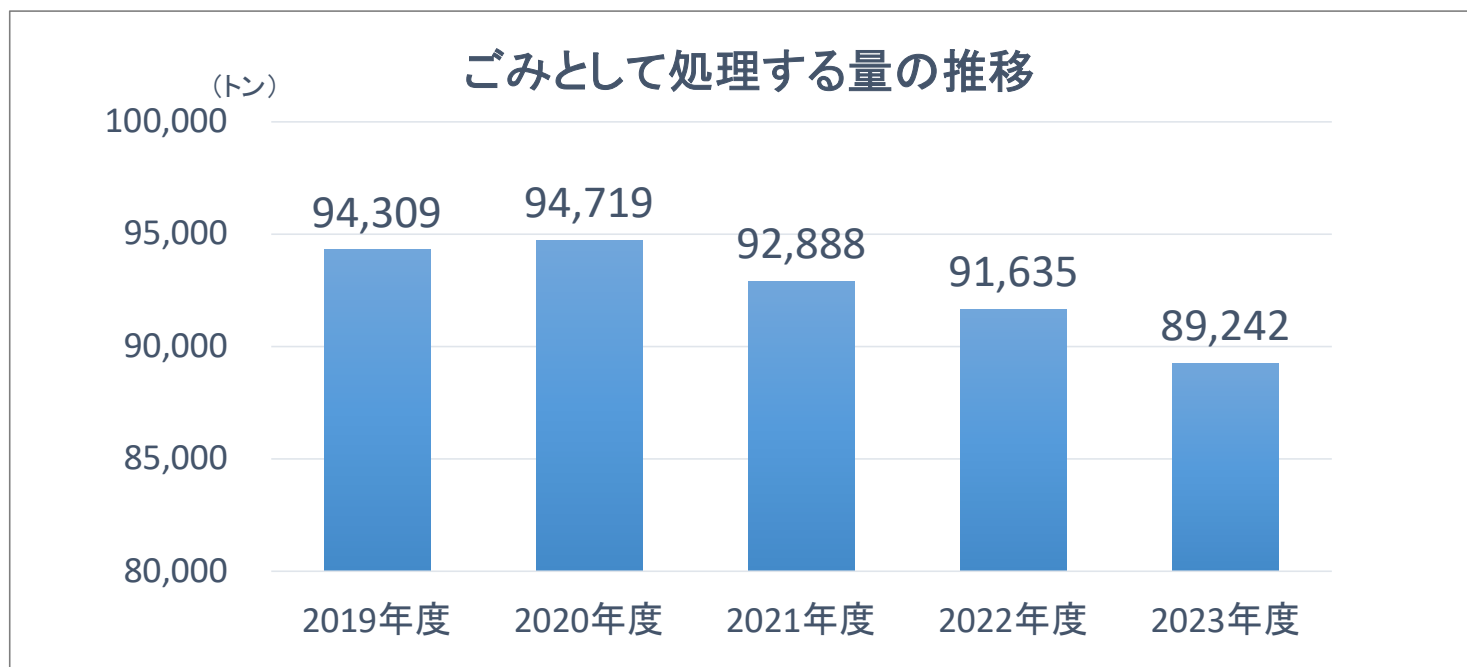
説明内容

1. ごみ量の状況
2. ごみ減量・資源化の取組状況
3. 資源ごみ処理施設の整備状況と暫定処理方針
4. 今後の見込

1.ごみ量の状況

(1) ごみとして処理する量

町田市内のごみとして処理する量（可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ・有害ごみ量の合計）は、2020年度の94,719トン进行ピークとして減少傾向にあり、2023年度は、89,242トンとなりました。

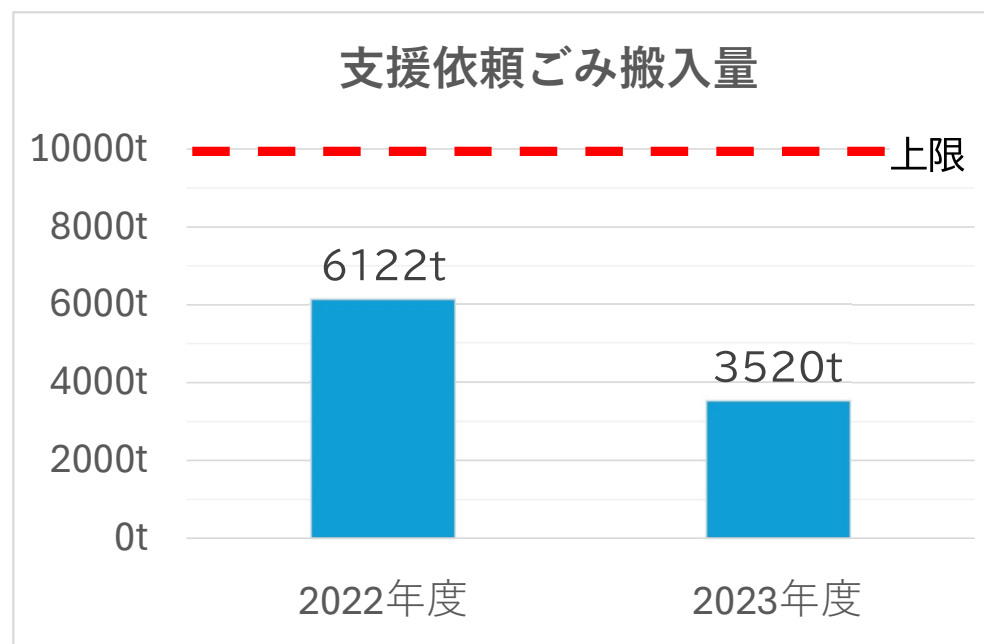


1.ごみ量の状況

(2) 支援依頼ごみの搬入量の推移

町田市の清掃工場である町田市バイオエネルギーセンターで処理しきることができないごみについて、年間10,000トンを上限に、多摩ニュータウン多摩清掃工場へ処理をお願いしております。

この支援依頼ごみの2023年度搬入量の実績は、3,520トンとなり、2022年度から2,602トン減少しました。



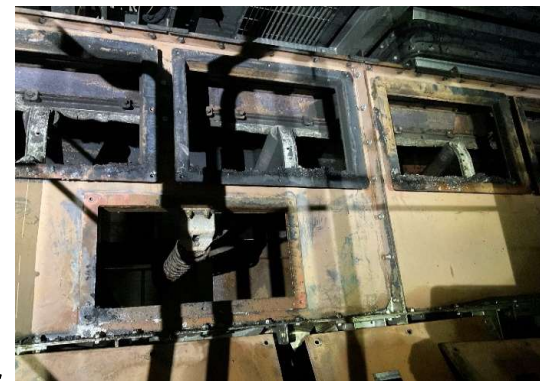
1.ごみ量の状況

(3) 町田市バイオエネルギーセンターでの火災による応援ごみの搬入

2023年11月4日に町田市バイオエネルギーセンターのバイオガス化施設内（地下階）で火災が発生しました。

火災の原因は特定できませんでしたが、充電式電池（リチウムイオン電池）の可能性が高いと推定されています。

この火災の影響で、11～12月の間に処理が困難であったごみのうち484トン、2024年4月からは、日量21トン上限に、多摩清掃工場に受け入れていただいています。



選別ごみ搬送コンベアの被災状況

なお、火災の原因となりうる、スマートフォンや電子たばこ、モバイルバッテリーなどの充電式小型家電（充電式電池を取り外せない小型家電）の行政収集を2024年8月から開始し、火災の予防に努めています。

2.ごみ減量・資源化の取組状況

ごみ減量・資源化を進めるため、従前の取組の拡充に加えて、2023年度から新たな取組を開始しました。

(1) 食品ロス削減推進計画の策定 (2023年8月)

食品ロスの削減を総合的に進めるため、2023年8月に「町田市食品ロス削減推進計画」を策定いたしました。

(2) フードドライブの拡大

公共施設でのフードドライブ窓口（未利用食品の受付）を新たに市民センター等の2か所で開設し、計5か所となりました。市庁舎では、2023年度の1年間で約360kgの食品を受付けました。

(3) フードシェアリングサービスの導入 (2023年12月～)

フードシェアリングサービスとは、消費期限が迫っている食品など食品ロスになってしまいそうな食品を販売したい事業者と、購入を希望する消費者をインターネット上でマッチングするサービスです。

町田市では、このフードシェアリングのアプリである「TABETE」を運営する(株)コークッキングと2023年12月に連携協定を締結しました。広報紙やSNSのほか、イベントや事業者向け講習会で、アプリの利用・登録をPRしています。



2.ごみ減量・資源化の取組状況

(4) 公共施設へのマイボトル専用給水器の設置拡大

マイボトルの普及を促進することで、プラスチックごみの削減を推進するため、民間事業者の協力によって、公共施設へのマイボトル専用給水器の設置を進めています。

2024年7月末現在、設置施設は13施設となっています。

(5) 使用済みのプラスチック製ペン等の拠点回収開始（2023年9月～）

プラスチックごみの分別を促進し、資源化を推進するため、株式会社パイロットコーポレーションと協力し、2023年9月1日から使用済みプラスチック製ペン等の拠点回収を開始しました。2024年3月までに約30kgを回収し、様々なリサイクル品に生まれ変わっています。



(6) 不用品一括査定サイト「おいくら」との協定の締結（2024年3月）

不用品一括査定サイト「おいくら」と協定を締結し、ごみに出す前にリユースの検討を促す取組を開始しました。月300点以上の不用品が査定依頼に出されています。



3.資源ごみ処理施設の整備状況と暫定処理方針

町田市の資源ごみ処理施設等の整備について定めた「町田市資源循環型施設整備基本計画」を2023年5月に改定し、相原地区の施設は2028年度、上小山田地区の施設は2037年度の稼働予定としました。

現在の状況は、相原地区については、施設用地の取得を進めるとともに、施設の整備工事発注に向けた発注仕様書案を作成しました。上小山田地区については、前提となる道路の整備方針が変更となったため、庁内関係部署と施設へのアクセス路等の調整を進めています。

今後、施設の完成を急ぐとともに、業務委託による暫定的な資源化方法によって、2026年度から市全域で容器包装プラスチックの分別収集・資源化を開始する方針としました。



4. 今後の見込

町田市では、市民・事業者への啓発強化、新たな品目の資源化など、ごみの減量を推進するための施策を強化してまいりましたが、依然として町田市バイオエネルギーセンターでは、市内で発生する可燃ごみの一部を処理できない状況です。

2024年度においても、年間1,700トン程度の可燃ごみの処理を多摩清掃工場へお願いしております。

多摩清掃工場周辺住民の皆様におかれましては、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。